

洋書輸入協会会報

VOL. 21
NO. 3

(通巻239号) 昭和62年 3月

理事会報告

1月26日(月)

(一) Feffer and Simons 社

Paul Feffer 氏が出席して、昨年12月同社の Baker and Taylor 社との合併に伴う諸問題について説明する予定であったが、同氏が急用で出席できなくなったため、同社の日本駐在代表牛尾三郎氏が出席して、同氏に代って説明した。

(二) 売上税に関する要望書

事務局長から発送の進捗状況について報告があった。

(三) 家賃の値上げ

一月からの家賃の値上げを承諾することとなった。家賃 ¥111,000+共益費 ¥21,000合計 ¥132,000。これまでは合計で ¥116,000だったので13.8%の値上げとなる。

(四) その他

2月10日(火)

(一) 12月分/1月分収支計算・予算対比表

報告通り承認された。討論の結果、コピー機ならびにファクシミリを設置することとし、また会員への連絡網をつくっていくことが検討された。

(二) 売上税

反対の意志を示すため、独自に署名運動をおこなうことが討論されたが、結論に達しなかった。また類似の団体と共同行動をとることが討論され、日書連、書協と打合せをおこなうこととなった。

(三) その他

行動の負担

服部 貞夫

<序の序>

よく言われることですが、組織は時によって二つの機能の必要にせまられます。第一は、秩序を守り、平穩に、できれば楽しく過してゆくのに必要な機能。第二は、緊急時に素早く反応し、的確な行動をとるのに必要な機能。この二つを組織として兼ねることは殆んどできません。なにしろ第二の機能は高価で平時はもちあつかい難いものです。そしてそれを一度選べば、もとへもどるのはなかなか難かしいので相応の覚悟がいらいます。

<何故、今>

洋書輸入協会は第一の機能はほぼ満足してきたと言えらると思います。外的な要因に反応するのは個々の問題とされ、協会の影響力は極力さけてきた感じがあります。

Table with 3 columns: Report Title, Page Number, and Section Title. Includes items like '理事会報告', '行動の責任', 'おしらせ', '計報', '1986(昭和61)年1~12月', '洋書輸入通関統計とその分析', '書物にかかわる歌(その5)', 'おしらせ', and '広告'.

しかるが故に（つまり第一の機能をもてば当然のこととして）協力の目的、それに必要な機能、負担等についての討議はまるでなされておられません。似たものはありましたが、いずれも言いっぱなしで、積重ねられてきたものがありませんから、諒解されたステップがまるでないのです。ですから、もし（なければよいのですが）その必要がある時は非常に多くの議論と時間が費やされることになるでしょう。その議論と時間を節約するために覚悟しておかねばならぬ問題の一つを整理したいのです。

〈最初で最後の問題——人と金〉

もし不幸にして（と私は思います）第二の機能を必要とする人が多ければ、どう機能させるかは別として、人と金は前提条件であり、キチンと整理されねばなりません。

専務理事は絶対に必要であります。現在立法・行政とも理事会でおこなっていますが、利害をとまなした目標を定め、計画をたて、実行するには、月二回集まるだけのその日その日内閣では無理です。（能力の問題ではなく、そのような方法では無理だということです。）また理事会は理事社の社長、会長、またはその代理で構成されている以上、どの人でも自分の会社の運営が大事です。自社で役員会なり、重要な会議があれば欠席しなければなりません。第一、利益の上るよい方法があれば、自分の会社でまず力をいれたいでしょう。このことはたとえ理事の構成がどう変わってもあまり違いはないと思います。したがって、協会の行動を第一に考えられる立場の、理事会の構成メンバーとも対等の資格をもつ専務理事が絶対に必要となります。（そのような理事をどうやって見つけるかは別の問題として。）

さて、専務理事が必要とすると、その十分な働きを引出すためには長い期間であれ、限られた期間であれ、十分な報酬と保障が必要になります。行動に要する実費は別として、協会は最低これだけの負担は覚悟する必要があります。最初にいいましたように、有効に機能するのは高価であつかい難いものである事実を理解しなければ、次のステップに進めません。そしてその負担は、例えば売上高税のように、各社の利益に関係あるものであれば、当然売上げの大小によって影響は大きく違ってきますから、売上高別なり、社員数別なりで分担することになります。まさか50億円、10億円、1億円のそれぞれの売上げのこれに関する利益が同一というわけではないでしょう。協会構成員の権利はいずれも票です。（もっと

も有効に機能しているかどうかは別ですが。）分担金の問題と権利の問題をどうするかは現在の国連でさえ解決できない問題ですから、十分な結論のではありませんが、この両方がともに必要だということは（政治的駆引きは別として）我々の生きている現代史の上ではまず承認されていることだと思います。この時点で合意がなければそれなりのことしかできないわけで、別に議論はありません。

〈蛇足〉 本文は投稿ではありますが、編集委員の話を聞いた上で一言つけ加える事にします。私としては多分誤解をされる事はないと思っているのですが、これは“もし目的を立てるならば”の事務プランで、最初に書きました通り、この様な事が必要となるのは不幸な事であると思わざるを得ません。軍備を整え、たとえ目的をとげたとしても、その軍備の構成の重さそのものを貧乏世帯が長くひきずることになるのは歴史に何時も明らかであり、そのあたりを誤解する人があろうとも思われません。しかし又その機能が無い事を“やれやれ”と喜ぶのを聞くのも楽しいものではありません。その辺を交通整理したつもりです。“必要であれば次を”というのは、皆さんがこの様な問題をこの様な型で論じてゆくのに興味があれば……という意味であります。こんな蛇足をつけ加えねばならないという蛇足をもう一つ。この投稿は編集委員の希望により一部削除いたしました。私にはそれによる不満はありません。（終）（国際書房 社長 投稿）

おしらせ

エルゼビア・サイエンス・パブリッシャーズの前東京支社長 加藤 勉氏は、このたびパーガモン・プレス・ジャパンのマーケティング担当特別顧問に就任されました。

計 報

株式会社南江堂 前常務取締役 佐野正司氏は病気のため逝去され、2月7日文京区向丘、願行寺に於て葬儀がとり行なわれた。享年71歳。同氏は永年にわたり協会監査役を勤められ、協会の発展に尽力された。ここに謹んで哀悼の意を表します。

1986(昭和61)年1~12月洋書輸入通関統計とその分析

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

大蔵省関税局から、1986(昭和61)年1~12月の日本貿易統計の輸入品別・国別表が発表されたので、洋書関係の数字をピックアップしていささかの分析を試みたい。

1. 書籍・雑誌の輸入通関価額及び数量

(表1) 1986年1~12月、書籍・雑誌輸入通関統計表(価額及び数量)

商品名	'85、1~12月		'86、1~12月			
	数量	価額	数量	前年比	価額	前年比
	千冊	百万円	千冊	%	百万円	%
書籍	15,964	21,897	14,279	89	18,174	83
雑誌	8,636	10,734	9,054	105	9,425	88
計	24,600	32,631	23,333	95	27,599	85

[注1] 書籍は仮とじのもの、パンフレット及びリーフレットを含むが、マイクロフィルム類、新聞、絵本、楽譜、カレンダー、絵葉書などは含まない。

[注2] 価額はCIF又はC&Fである。(以下同じ)

[注3] 1982年6月までは、小額貨物は10万円以下含まれずとなっていたが、7月より20万円以下含まれずに変更されている。

[注4] 書籍は、現品入荷月の翌月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1ヵ月の遅れで計上されている。

[注5] 雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約一年遅れで計上されている。

(表2) 1977~'86年書籍・雑誌輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

暦年	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1977	23,470	117	100	8,260	134	100	31,730	121	100
'78	23,023	98	98	8,650	105	105	31,673	100	100
'79	21,982	95	94	9,333	108	113	31,315	99	99

'80	23,018	105	98	11,049	118	134	34,067	109	107
'81	19,071	83	81	8,899	81	108	27,970	82	88
'82	21,285	112	91	11,052	124	134	32,337	116	102
'83	20,028	94	85	10,921	99	132	30,949	96	98
'84	20,874	104	89	10,707	98	130	31,581	102	100
'85	21,897	105	93	10,734	100	130	32,631	103	103
'86	18,174	83	77	9,425	88	114	27,599	85	87

(表3) 1984~'86年の上・下期毎書籍・雑誌の輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

期間	書籍		雑誌		計	
	価額	前年比	価額	前年比	価額	前年比
'84、1-6月	11,241	109	7,485	92	18,726	101
7-12月	9,633	99	3,222	116	12,855	103
計	20,874	104	10,707	98	31,581	102
'85、1-6月	11,475	102	7,732	103	19,207	103
7-12月	10,422	108	3,002	93	13,424	104
計	21,897	105	10,734	100	32,631	103
'86、1-6月	9,790	85	6,993	90	16,783	87
7-12月	8,384	80	2,432	81	10,861	81
計	18,174	83	9,425	88	27,599	85

(表4) 1982~'86年書籍・雑誌輸入通関統計推移表(数量)

(単位 千冊)

暦年	書籍		雑誌		計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
1982	14,734	86	7,160	101	21,894	91
'83	13,794	94	7,734	108	21,528	98
'84	14,578	106	7,739	100	22,317	104
'85	15,964	110	8,636	112	24,600	110
'86	14,279	89	9,054	105	23,333	95

(注) この数量には、文庫本から古本、バックナンバーなどまでを含むため、実用上の使用には適しない。

(表5) 1982～'86年書籍・雑誌単価推移表

商品名	'82	'83	'84	'85	'86	前年比
	円	円	円	円	円	%
書籍	1,445	1,452	1,432	1,372	1,273	93
雑誌	1,544	1,412	1,384	1,243	1,041	84
計	1,477	1,438	1,415	1,326	1,183	89

(注) (表4)の場合と同じく、この単価は実用上の使用には適しない。

〔分析〕

(1) 書籍・雑誌の輸入額15%ダウンについて

'86年1～12月の通関統計(価額)は、(表1)のように書籍17%ダウン、雑誌12%ダウン、計で15%ダウンと、過去10年間(表2参照)では、'81(S56)の18%ダウンに次ぐ激減の年であった。これは周知の通り'86年平均為替相場が、書籍・雑誌の輸入相手国全体の加重平均で、前年比約18%の円高となっているのがその原因である。

(2) 円高率より輸入ダウン率の方の幅が少ないことについて

洋書は、たとえ円高で売値が下っても、需要は増えないといわれているが、'86は18%の円高に対して15%の輸入額ダウンで、差引3%の需要増のように見える。しかし商品別に見ると、書籍は17%ダウンで円高率とほぼ見合い、雑誌は12%ダウンで一見需要増のようである。

ところが雑誌の大部分を占める定期刊行物は、統計手法上(表1)の(注5)のように、一年遅れで計上されていく。また定期刊行物の大部分は1～12月の予約であり、従って統計に計上されるのは翌年の1～3月が多いため、雑誌の通関統計は(表3)で見られるように、常に1～6月の前半期にその大部分が計上されている。そして'86の円高のうち1～3月は未だ円高の途中経過であるので、年平均18%の円高のうちの半分位しか影響が現われていないと考えられる。

これで'86の雑誌が12%しかダウンしていない説明がつくであろう。

(3) 1～6月と7～12月の輸入額比率について

(表3)で見ると、1～6月が前年比13%ダウン、7～12月が19%ダウンとなっていて、下半期のダウンが大

きい。これは急激な円高が'85秋から'86初夏にかけて起り、その後はゆるやかな上下を繰り返す……高値安定という経過から起った現象である。

2. 主要国別通関実績

(表6) 1986、1～12月主要国別、書籍・雑誌別輸入通関統計表(価額)

(単位 百万円)

国名	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
米	7,298	74	40	4,290	75	45	11,588	75	42
英	4,362	95	24	1,130	95	12	5,492	95	20
西独	2,603	89	14	865	102	9	3,468	92	13
仏	565	90	3	473	111	5	1,038	98	4
スイス	455	97	3	344	113	4	799	104	3
蘭	797	84	4	1,296	118	14	2,093	102	8
伊	172	84	1	508	101	5	680	96	2
ソ連	69	34	0	51	32	1	120	34	0
香港	473	86	3	118	104	1	591	89	2
その他	1,380	87	8	350	88	4	1,730	87	6
計	18,174	83	100	9,425	88	100	27,599	85	100

(表7) 米国1982～'86年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1982	10,010	115	47	5,420	122	49	15,430	117	48
'83	9,224	92	46	5,378	99	49	14,602	95	47
'84	10,255	111	49	5,488	102	51	15,743	108	50
'85	9,806	96	45	5,695	104	53	15,501	98	48
'86	7,298	74	40	4,290	75	45	11,588	75	42

(表8) 英国1982～'86年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1982	4,144	100	19	1,770	122	16	5,914	106	18
'83	3,590	87	18	1,235	70	11	4,825	82	16
'84	3,976	111	19	1,316	107	12	5,292	110	17
'85	4,577	115	21	1,190	90	11	5,767	109	18
'86	4,362	95	24	1,130	95	12	5,492	95	20

(表9) 西独1982~'86年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1982	3,068	120	14	928	91	9	3,996	112	12
'83	2,916	95	15	935	101	9	3,851	96	12
'84	2,542	87	12	832	89	8	3,374	88	11
'85	2,929	115	13	847	102	8	3,776	112	12
'86	2,603	89	14	865	102	9	3,468	92	13

〔分析〕

'86の主要6カ国の為替相場は、年平均でUS\$29%、Stg£20%、DM5%、SFR4%、FFR9%、DGL4%のそれぞれ円高であった。(表6)はこの円高率をある程度反映している。ことに米国の輸入額25%ダウン、シェアの3%減は大きい。即ち'86の書籍・雑誌の輸入価額減少47億6千2百万円のうち、実に39億1千3百万円、82%は米国からの輸入価額減によって起ったものである。

なお雑誌については、円高にもかかわらず'86に前年比アップしている国が多いが、これは前述したように雑誌の統計の取り方によって起っている現象で、'87にその自然調整が行われるであろう。

(表10) フランス1982~'86年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1982	605	96	3	455	122	4	1,060	106	3
'83	589	97	3	446	98	4	1,035	98	3
'84	673	114	3	418	94	4	1,091	105	3
'85	628	93	3	428	102	4	1,056	97	3
'86	565	90	3	473	111	5	1,038	98	4

3. 主要国以外の状況

(表13) 主要国以外で1986年1~12月に、書籍又は雑誌のいずれかで1,000万円以上輸入されている国の一覧表(価額)

(単位 百万円)

(表11) スイス1982~'86年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1982	594	90	3	357	149	3	951	106	3
'83	515	87	2	564	158	5	1,079	113	4
'84	408	79	2	328	58	3	736	68	2
'85	467	114	2	304	93	3	771	105	2
'86	455	97	3	344	113	4	799	104	3

(表12) オランダ1982~'86年輸入通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

年次	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
1982	970	144	5	1,254	163	11	2,224	154	7
'83	935	96	5	1,330	106	12	2,265	102	7
'84	907	97	4	1,392	105	13	2,299	102	7
'85	953	105	4	1,098	79	10	2,051	89	6
'86	797	84	4	1,296	118	14	2,093	102	8

国名	書籍	雑誌	計	前年比
韓国	238	40	278	165
N. KOREA	157		157	71
中国	191	70	261	127
台湾	331	16	347	129
シンガポール	106	37	143	81
フィリピン	25		25	
インド	20		20	74
デンマーク		60	60	76
アイルランド	16	48	64	96
ベルギー	32	2	34	45
東ドイツ	13	14	27	61
スペイン	39		39	23
フィンランド	10	2	12	
オーストリア	42	41	83	108
カナダ	75	1	76	127
オーストラリア	24	2	26	52

(表14) 近隣6ヵ国からの1982~'86年書籍・雑誌合計輸入通関統計推移表 (価額) (単位 百万円)

国名	'82	前年比	'83	前年比	'84	前年比	'85	前年比	'86	前年比	構成比
韓国	251	94%	473	188%	112	24%	168	150%	278	165%	1.0
N・KOREA	75		147	196%	146	99%	220	151%	157	71%	0.6
中国	291	117%	251	86%	308	123%	205	67%	261	127%	0.9
台湾	224	102%	251	112%	340	135%	363	107%	347	129%	1.3
香港	480	119%	502	105%	484	96%	663	137%	591	89%	2.1
シンガポール	117	121%	99	85%	166	168%	176	106%	143	81%	0.5
計	1,438	116%	1,723	120%	1,556	90%	1,795	115%	1,777	99%	6.4

(表15) 1982~'86貿易統計輸入表に掲載された国数推移表

品目	1982	'83	'84	'85	'86
書籍	53	52	50	56	52
雑誌	36	36	36	38	32
計	89	88	86	94	84

(注)大蔵省関税局発表の貿易統計には、一国からの輸入が年間20万円以上のものが掲載されている。

[分析]

(表13) に、'85に入って'86に外れた国は、ノールウェー、スウェーデン、ポルトガルの3国であり、特に目立った変動はない。(表14)の近隣6ヵ国からの輸入は、円高にもかかわらずますますのところである。そのために、この6ヵ国の全体の中のシェアが、'84:4.9%、'85:5.5%、'86:6.4%と逐次増大しつつある。

輸入相手国の多様化現象が進んでいたが、'86は15%も輸入額がダウンしたために、(表15)の国数が一挙に10ヵ国も減少してしまった。やむを得ないことである。

4. 洋書関連商品の輸入通関統計

(表16) 書籍・雑誌に準ずる商品の1982~'86年輸入通関統計推移表 (価額) (単位 百万円)

品名	'82	'83	'84	'85	'86	前年比	'82:'86
絵本	385	537	403	419	282	67%	73%
新聞	207	209	299	353	412	117%	199%
楽譜	738	832	670	638	521	82%	71%
地図・海図	822	713	808	898	577	64%	70%
印刷書画	696	616	642	1,016	1,112	109%	160%
その他の印刷物	5,637	4,410	5,434	5,594	5,017	90%	89%
計	8,485	7,317	8,256	8,918	7,921	89%	93%

(注)○絵本は、幼児用の絵本及び習画本。

○楽譜は、手書きのもの、絵入りのもの及び製本したものを含む。

○地図・海図は、その他これらに類する地理学用・気象学用又は天文学用の図を含み、印刷したものである。

○その他の印刷物には、広告用印刷物(ポスターを含む)、広告・宣伝を目的とする物、各種の貿易用カタログ(書類楽譜の出版者のリスト、芸術作品のカタログを含む)、観光案内、印刷されたカレンダーバック、紙又は板紙以外の材料に印刷されたカレンダー等々が含まれている。

(表17) その他の関連商品の1982~'86年輸入通関統計推移表 (価額)

(単位 百万円)

品名	'82	'83	'84	'85	'86	前年比	'82:'86
地球儀	328	204	152	177	66	37%	20%
絵葉書等	248	408	315	235	261	111%	105%
カレンダー	653	557	617	597	574	96%	88%
写真	459	291	255	328	571	174%	124%
写真用フィルム等	904	722	1,003	988	750	76%	83%
計	2,592	2,182	2,342	2,325	2,222	96%	86%

(注)○地球儀は、天球儀を含み、印刷したものである。

○絵葉書は、クリスマスカードその他の絵入りカードを含み、印刷したものである。

○カレンダーは、紙製又は板紙製のもの。

○写真用フィルム(Code No. 37.05-000)は、写真用のプレート及びフィルム(現象したもの)であり、マイクロフィルム・マイクロフィッシュ・スライド等はこれに含まれ、映画用を除く。

(表18) 洋書に準ずる商品、関連商品の主な輸入相手国

(単位 百万円)

商品名	1位	2位	商品名	1位	2位
絵本	米 国	シンガポール	地球儀	デンマーク	米 国
新聞	米 国	シンガポール	絵葉書等	米 国	英 国
楽譜	米 国	西 独	カレンダー	西 独	ス イ ス
地図・海図	米 国	英 国	写 真	米 国	フ ラ ンス
印刷書画	米 国	フランス	写 真 用 ฟิล์ม 等	米 国	英 国
その他の印刷物	米 国	台 湾			

〔分析〕

(表16)の書籍・雑誌に準ずる商品では、絵本と地図・海図のダウンが目立つ。絵本こそは円高になって安くなったのであるから、余計に売れても良からうと思われるのであるが、それが円高の幅以上に落ち込んでいる。円高不況のなせるわざであろう。新聞と印刷書画の堅調ばかりが目立つ一年であった。

(表17)では、相変わらず地球儀の退潮がいちじるしい。

(表18)は今回始めて作ってみた表である。香港、シンガポール、台湾などで印刷をして貰って、それが再輸入している実態が出てきて興味深い。

5. 輸出 (参考)

(表19) 1977~'86年書籍・雑誌の輸出通関統計推移表(価額)

(単位 百万円)

暦年	書籍			雑誌			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1977	8,163	107	142	2,808	132	165	10,971	113	147
'78	9,031	111	157	2,916	104	172	11,947	109	160
'79	9,325	103	162	3,955	136	233	13,280	111	178
'80	13,889	149	242	4,915	124	289	18,804	142	193
'81	16,523	119	287	5,645	115	332	22,168	118	296
'82	18,671	113	325	5,900	105	347	24,571	111	330
'83	20,623	110	359	5,358	91	315	25,981	106	349
'84	26,524	129	461	5,841	109	344	32,365	125	435
'85	33,357	126	580	5,973	102	352	39,330	122	528
'86	30,872	92	536	4,676	78	275	35,458	90	476

(注) 指数は1975を100として算出した。

(表20) 書籍・雑誌計の輸入と輸出の比率推移表

暦年	輸入	輸出
	%	%
'75 (S50)	78	22
'84 (S59)	49	51
'85 (S60)	45	55
'86 (S61)	44	56

(表21) '85~'86年書籍・雑誌輸出先国数

暦年	書籍	雑誌
	カ国	カ国
1985	135	33
'86	123	34

〔分析〕

通関統計上の書籍・雑誌の合計額で、輸出が輸入を上回り、逆転現象を起したのは'59年であったが、この傾向は(表19)のように更に続いている。しかし'85秋からの急激な円高は、'76 (S51)以来連続してきた輸出の前年比アップの記録を、ついにストップさせてしまった。

しかし数字は、時時常識外の数値を示すことがある。即ち最も円高の激しかった米国への輸出は、書籍こそ前年比7%ダウンであったが、雑誌は逆に46%アップし、合計で4%しかダウンせず、米国のシェアを45%から48%に高めている。以上

書物にかかわる歌 (その5)

稀々に本読めば本に助けられ本を尊び本を読まぬかも
土屋 文明

「読むなき本」と題した連作中の一首で昭和42年の作。「続々青南集」に収録されている。昨年94歳の最高齢で文化勲章を受賞したことは未だ記憶に新しい。いまなお現役で、アララギや読売歌壇で後進を指導する矍鑠たる活躍ぶりは驚異的ですらある。

この歌は、「本」という言葉をいくつも重ねながら調子よく歌われていて、古歌の〈月々に月みる月は……〉を連想させるところがある。大著「万葉集私注」によっても知られている作者が〈本を読まぬ〉はずもないが、これはあくまでも主観の問題だろう。

同時の作に〈今のうちに借りたる本ども返さむとも時ありて読むかともまどふなり〉や〈借りし本その人々に返せとぞただ一つ我が言ひのこすこと〉があって、これ等には自身の年齢をこころに置いた感慨が読みとれる。

A. A.

おしらせ

洋販 (日本洋書販売配給株式会社) (03)208-0181

次の出版社の代表業務を開始いたしました。

W.W. NORTON & COMPANY, INC. U.S.A.

RANDOM HOUSE, INC. U.S.A.

Trade, Juvenile, College Divisions



harwood academic publishers
chur • london • paris • new york

Announcing two major new journals that give you the latest research...

小児科医、外科医に最新の情報を提供！

SURGICAL RESEARCH COMMUNICATIONS

Editor-in-Chief:

D. J. Leaper, Southmead General Hospital, UK

Regional Editor in Asia:

K. Ishibiki, Keio University, Japan

近年の外科医学の早い進歩に
対応すべく生まれた情報誌。
広範囲にわたり外科の基礎、
応用研究の成果を提供する。

ISBN : 0882-9233

Volume 1, Number 1

1987年1月創刊

4 issues per volume

予約受付中 Volume 1

予約価 ¥48,000(1987年6月まで)

Pediatric Reviews and Communications An International Journal

Editors:

David Burman, Bristol Royal Hospital for Sick
Children, UK

Philip Lanzkowsky, Schneider Children's
Hospital, New York, USA



小児医学全般にわ
たり、評論及びオ
リジナル研究論文
を扱う国際評論誌。

ISBN : 0882-9225

Volume 1, Number 1

1987年1月創刊

4 issues per volume

予約受付中 Volume 1

予約価 ¥46,000(1987年6月まで)

上記2誌の無料見本誌をご希望の場合は下記宛お申し込み下さい。



洋販(日本洋書販売配給株式会社) 〒160 東京都新宿区大久保3-14-9 TEL(03)208-0181

昭和62年3月 通巻第239号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室 ☎271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329